

2012年(平成24年)3月23日(金曜日)

非常食詰めた「白い小箱」

桑名市、推進機構と協定

非常食を詰めた「白い小箱」は二十二日、桑名市と小箱提供のための「日本非常食推進機構」(四日市アルファ化米二袋、ブ

ドウ糖、アルミ温熱シートなどが入っている。費用は企業や団体の協賛で賄い、毎年三

千個ほどを市に無償提供する。桑名市分は現在、市内と津市の六つの企業・団体が協賛。安定提供できるよう、協賛先の拡大も図っていくという。

市は提供された小箱を各地区の防災訓練で、参加者へ一世帯一箱ずつ配布。家庭で非常食を備蓄し、防災意識向上につなげる。訓練は三年に一回で、使った小箱の回収もする。回収後は、機構が海外支援をする民間団体を通じて

東員町とは既に協定を結んでおり、四日市市や伊勢市なども締結を予定しているという。

(生田貴士)



協定書に調印した古谷理事長(左)と水谷市長(右)＝桑名市役所で

毎日新聞 2012年(平成24年)3月23日(金)

非常食が入った小箱を手にする水谷市長(右)と古谷理事長＝桑名市役所で



非常食を家庭配布へ

桑名市が協定

「白い小箱」の推進機構と

桑名市は22日、非常食の食品などを詰めた白い小箱を各家庭に無料提供している日本非常食推進機構(四日市市)と「災害救助に必要な物資の調達に関する協定」を結んだ。

同機構が進める白い小箱運動は災害時に備え、協賛企業などから寄付金を募って非常食などを購入し、各家庭に配布する運動。被災地への支援物資としても活用できる。小箱にはペットボトルの水2リットルとアルファ化米2袋、ブドウ糖、アルミ製の温熱シートなどを詰め、賞味期限は5年。市は防災訓練の参加者を対象に年約3000個を目標に配布する。

水谷元市長は「防災意識の向上に役立つ」と期待を寄せ、同機構

の古谷賢治理事長は「白い小箱運動を全国に広めていきたい」と話した。【佐野裕】